

## 平成20年度自己評価結果公表シート

### 1. 本園の建学の精神（理念）

幼児教育を受けたい人は誰でも受けられる幼稚園であること。  
就学前幼児の心身の発達及び社会性の獲得のためには「遊び」こそが重要であること。

### 2. 教育目標

幼児教育に熱心な教諭のもと、幼児が喜んで興味を示すような環境を設定する。  
「遊び」を活動の中心に据え、伸び伸びとした集団生活を営むことを通じてどんな時にもくじけない明るく元気で自主性のある人、「やる時はやる」けじめのつけられる人になるような教育を目指している。

### 3. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

新教育指導要領に基づき、乳児から幼児～就学までの子どもの育ちを連続的に捉えることから保育内容や教職員の体制の見直し、教職員の一層の資質向上をはかっていくことを(中)長期目標に据えて取り組んでいくための、検証と点検の充実化を重点項目とする。

### 4. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解の状況	昨年度の、年少クラスの完全複数担任・その他学年内補佐制と異なった今年度においては、学年内での情報交換や連携及び、他学年間の情報交換等の場・時間を恣意的に設定しなければ共通理解が得られにくい、そのシステムの確立が充分でなかった点がある。
年間・月間指導計画や週案、日常的な教育内容の検討と見直しの取り組みについて	年度当初に会議を通して定めた年間指導計画に基づいて保育を進めると共に毎月の保育計画作成時、及び二週毎の職員会議時の週案作成の際、それまでの保育内容について検証している。但し、音楽や食育、絵画指導など個別カリキュラムの時間配分などの調整を学年間、内でもっと詰める必要があった。(全)
遊びの援助者として、遊びに集中できる環境をつくっている	職員間の連携も含め、遊びに集中できる環境をつくるという観点で、同学年教諭と交代で室内の片付け・準備などと遊び監督とを分担した。(年少)
子ども一人ひとりの体調や変化に気付き、興味や関心のあることから遊びが広められるようにしている	朝の受け入れ時や一緒に遊ぶ中で子どもの様子や反応、状況把握に努めた。一人ひとりの興味などを知るにつれ、それを取り上げてこちらから働きかけたり、個々の興味や関心事を皆に紹介することから遊びが広がったりした。(全)
個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しを持って理解している	担任外の教諭との連携により、様々な傾向の子どもそれぞれを意識した集団活動がとれた。さらに、担任外の教諭から担任への報告の機会をもっと確保できれば尚よかった。(年中)

<p>子どもたちの興味や状況を把握し、その場面ごとに見合った環境を即座に用意する</p>	<p>子どもの興味を良く知り、反応を見通して、必要な材料がすぐに提供できるような環境構成には不十分さが残った。週案などで決めた保育の流れの中でも実際、その時その場毎の子どもの発想などができるだけ柔軟に対応できたと思うがそのために指導目標の達成に時間がかかったのが要改善点である。(年長)</p>
<p>子ども同士が自ら考え、育ちあっている環境を用意している</p>	<p>特に男の子の活発さがケンカなどに発展してしまうことが多かった。このことから、ケンカにならずに済むように自分達で考えることを提案した結果、自分達でルールを考えたりして解決していくことができた。また、活動の場面場面を利用し、みんなでクラス目標を立てる機会を設けたりした中で、クラス内に各自の役割もできた。一方、行事毎にクラス内にチームを作って臨んだが、そのみで終わらずにその班行動を日常でも持続させ、団結力やチーム間の良い競争意識などに繋がられればよかった。(年長)</p>
<p>子ども同士が自ら考え、育ちあっている環境を用意している</p>	<p>椅子取りゲームが、一部の子どもたちにおおいに流行ったためその時間を多くとるようにしたところ、ゲーム自体に参加することのためらいのあった子なども徐々に関心を示し、自ら椅子を間引く係、応援係など役割を持って参加できるようになった。(年少)</p>
<p>保育のみならず、色々なことについての専門知識を身に付け、子どもたちの成長や興味に合った保育を行う</p>	<p>交友関係が余り見られなかった子の興味の対象(恐竜)に対し、それに応えられるような図鑑を用意したところ、他の子どもたちにも興味の輪が広がり、共に遊ぶようになったケースなどから、自分(教諭)もそれについての知識を身に付け、深める努力をすれば、更に多くの子も巻き込めたと反省した。(年中)</p>
<p>保育のみならず、色々なことについての専門知識を身に付け、子どもたちの成長や興味に合った保育を行う</p>	<p>食育については、時間外でもテレビや雑誌などを見る機会に、常に無意識にどう生かすかを考えている。(年中)</p>
<p>子どもたちの、様々な物事に興味を持ち積極的に挑戦しようという気持ちを大切に、高度なものに挑戦できる環境をつくる</p>	<p>ひらがなへの興味が高じていたため、学年内でカルタ大会を実施した。当初は、得意、不得意な子がはっきり分かれていたが、負ける悔しさから自発的に音読やカルタ取りの練習をし、次第に差が縮まった。よい意味での競争心や興味の対象や層が広がった。これを機に、縄跳び表の提供など、子どもたちが挑戦したくなる環境を意識的に用意することで、最終的には子どもたちだけで様々な課題を見つけ、取り組めるようになった。(年長)</p>
<p>様々な意見や情報を取り入れながら、子どもの立場でより良い保育を考える</p>	<p>保護者からの意見や要望に耳を傾けることにより、自分の保育を客観的に見直すことができた。また、他の教職員や関係機関の専門家等との話し合いや研修を通して保育内容を深める視点が持てた。(年少・年中)</p>

<p>仕事の手順を考えながら、要領よく動くとともに「子どもたちの見本」という意識を持って、言葉遣いや行動を心がける</p>	<p>事前のカリキュラム、保育内容の増減などをその時々の子どもの状況に合わせて臨機応変に対応するよう心がけた。その結果、保育時間内の学年内での連携などによる子ども主体の時間の使い方の効率化や放課後の保育準備等の緩急の要領などもつかめた。最も意識し、今後も注意を要するのは自身の言葉遣いである。(年少)</p>
<p>園務分掌や主任制度、各教職員間の連携が適切に機能するなど、幼稚園の明確な運営・責任体制の整備の状況</p>	<p>主任一人の制度についての限界から組織として指導的立場の教諭が複数で各学年、クラス、個々の担任との情報共有をはかることが今後の課題である。園長や経営・運営全般の意図と全職員の状況との相互関係を効率よく、密度濃くし、それぞれの部署の責任体制の明確化と、連携強固な運営を担う為、主幹・指導教諭体制を確立させていくことを来年度の重点目標の一つとする。</p>
<p>幼稚園の財務運営の状況（園が管理する資金の予算執行に関する計画、執行・決算・監査の状況等）について</p>	<p>例年通り、会計は公認会計士による年2回の監査により公正に処理されている。平成17年度に、東京都による平成15・16年度の「財政援助団体等（私立学校）監査」を受け、良好に終了した。平成16年度の耐震化改築工事の際に受けた東京都私学財団からの融資返済も滞りなく実施しており、財政に余裕はないものの、定例理事・評議員会において例年通りの予算編成の見通しである。</p>
<p>地域や保護者の要望による幼稚園の子育て支援活動の実施状況について</p>	<p>平成19年度未入园児のつどいが、ほぼ全て園庭開放だけであったことの反省から、地域の保護者に幼稚園教育についてもっと細やかに知ってもらうことも含めて今年度はその内容の充実化を図った。園庭開放については、水曜午後/月1回のペースで提供した。また、今年度から、かねて要望のあった2歳児親子教室も開始し、定員比100%ではないが、好評を得た。2歳児担当教諭は、月謝を頂戴するに見合う内容を提供できているかを常に検証しながら、初めての試みに取り組んだ。</p> <p>他方、未入・在園問わず子育て相談の機会・人員はなかなか確保できていない。潜在的需要はかなり大きい現状にあって、来年度の課題である。</p>
<p>他の関係機関との連携状況について</p>	<p>渋谷区子ども発達相談室、地域協議会（東京都児童相談センター・渋谷区子ども家庭支援センター・小学校・保育園など）との連携により、様々な子どもなどについて相談の機会を得ている。また、今後は小学校との一層の連携をはかり、小1プロブレムなどを未然に防ぐと共に、当園の教育目標や社会の礎を担うに叶った子どもの教育の追及を深めたい。</p>

<p>自然災害、その他に対する施設・設備、教職員や子どもたちに対する安全管理の状況について</p>	<p>平成 15 年度に、文部科学省の委嘱事業として現新園舎部分の耐震診断を実施した結果、老朽化が激しく平成 16 年度に改築し、耐震構造とした。旧園舎については昭和 60 年建造のため、耐震基準を満たしている。備品類、ガラス窓等については地震対策を順次整備している。火災に対しては、毎年の消防署による定期検査、防火管理者(園長)の配置等を整えている。</p> <p>職員・園児ともに地震、火災に対する避難訓練を毎年定期的に行っている。その他の特殊建築物等定期調査が渋谷区に報告済みである(平成 22 年期限)。アスベスト含有検査の結果、含有建材は使用していない。</p> <p>遊具の点検については、設置 10 年以上のもの(鉄棒)は有資格者による点検を年 1 回行っている。その他の遊具も日常的に目視・稼働点検をし、不具合を発見した際にはメーカー等にて点検整備を行っている。また、施設設備についても日々点検し、異常や瑕疵があれば修繕等の対応をしている。</p>
---	--

#### 5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

職員一同、常に向上心を持って研究と実践に臨んでいる。そしてそれは、実際の保育にも着実に表れている。「どんな時でもくじけない・集団の中でのびのび自分を出せる。」

だが、まだまだ子どもたちの育ちのためにできる努力はあるという自覚も持っているので当園の教育目標実現の確実性への取り組みを園組織全体で更に効果的なものにしたい。

#### 6. 今後取り組むべき課題

上記の評価に対し、当園の教育目標の一つである、「けじめ」については、今後一層の重点課題である。これも含め、教育目標に照らした実践活動として、それを効果的に発揮するための

教職員組織の体制の見直し(主幹・指導教諭を置く)と 地域や在園児保護者に対する相談受け付けや話し合いの機会の確保、及び 指導要領改訂に基づく小学校との連携強化が平成 21 年度の短期目標である。

#### 7. 学校関係者(笹塚幼稚園評議員会)の評価

今年度の幼稚園の取り組みについては、おおむね良好な運営をされ、自己評価も積極的に行っているとの意見を頂いた。

平成 21 年 3 月 28 日  
学校法人 笹塚幼稚園